



広島東南ロータリークラブ 週報2009年12月14日(第2332回例会)

例会日 月曜日 ANA クラウンプラザホテル広島 241-1111
事務所 リーガロイヤルホテル広島13階 221-4894
会長 中谷一彌 幹事 生谷武寛



12月は「家族月間」です

本日の例会

スケジュール

物故会員に黙禱 - 佐古育司君 (広島西南RC) 12/7ご逝去70歳

12:30 点 鐘

ロータリーソング「我等の生業」

来客紹介 (親睦委員会)

会食

12:45 会長時間 (中谷会長)

12:50 幹事報告 (生谷幹事)

委員会報告

・出席報告 (出席委員会)

・その他

同好会報告

S.A.A.

13:00 プログラム

13:30 点 鐘

会長時間

入会式 苅田 祥史会員<日立製作所>

紹介者: 山下 泉、錦織亮雄 各会員

連続出席100%会員(12月表彰分)

島筒志郎君 13年 温泉川梅代君 11年

島居比路君 11年 村上賢一君 6年

幹事報告

次回例会は「クリスマス家族例会・懇親会」です。
「市民募金」総額36,370円ご協力感謝いたします。
例会終了後、次年度理事役員会開催されます。

本日のプログラム

「年次総会」次々年度(2011-12)会長の選出
次年度副会長・幹事・理事の選出

次回例会(12月21日)

「クリスマス家族例会・懇親会」

18:30 ~ 於ANAクラウンプラザホテル広島

お知らせ・お願い



ポールハリスフェロー
松原 進会員
認証状・バッジ・メダルを
伊藤副会長より伝達

今後の予定

第2回経営研究会

とき 12月14日(月)18:30~

ところ ANAクラウンプラザホテル

講師 アイレストホーム(株)

代表取締役 旦康次郎会員

演題 「こだわりのビジネスは不況に強いのか」

柏の実苑クリスマス会訪問

とき 12月19日(土)10:30~

ところ 安芸区民文化センター

広商IAC歳末たすけあい街頭募金

とき 12月19日(土)12:00-16:00

ところ 天満屋広島八丁堀店前

クリスマス家族例会・懇親会

とき 12月21日(月)18:30~

ところ ANAクラウンプラザホテル

創立50周年記念式典・祝賀会

とき 2月1日(月)

式典 17:00~/祝賀会 18:00~

ところ ANAクラウンプラザホテル

姉妹クラブ歓迎行事

ウェルカムパーティー

とき 1月30日(土)18:30~

ところ ANAクラウンプラザホテル

北広島町へバスツアー(冬の家族会)

とき 1月31日(日)9:00出発

芸北文化ホールにて屋台・そば打ち・神楽鑑賞

温泉・スキー体験(芸北国際スキー場)



ロータリーカード入会でロータリー財団に貢献!

お買い物などで利用することにより、ご利用金額の0.3%とロータリーゴールドカードの年会費10,500円のうち3,000円が自動的にロータリー財団にロイヤルティーとして還元され、ポリオ2億ドルチャレンジに加算されます。(詳細は本日記配のチラシに記載)

前回 2009年12月7日例会

卓話「海保大生と地球二周の船旅」

海上保安大学校 元校医 山根 修治氏



本日はお招きいただきありがとうございました。

こんな席でお話する機会をはじめたので少しとまどっています。

よく海上保安庁と海上自衛隊を混同される方が多いのですが、海上保安庁は国土交通省の所属で、主に海の警察・消防・救難などの役目を担っています。

今回は「海保大生と地球二周の船旅」という演題にさせていただきましたが、実際の遠洋航海は決して楽な船旅ではなく、各セクションの船務の専門的スキルを習得する厳しい訓練の場です。修学旅行や観光旅行でないことは、遠洋航海後、誰一人として「もう一度行きたい」と言わない事実をみてもわかります。

トレーニングの舞台は練習船「こじま」で、呉を出港した後、ハワイ・パナマ・ニューヨーク・ギリシャ・シンガポール経由で世界をまわりますが、寄航地はわずか4箇所の上、その地でも外国の施設見学や合同訓練、総領事などの表敬訪問とスケジュールがびっしり組まれています。

私は校医として同乗しておりますので生徒の病気についてのお話をします。

平成21年度の傷病状況を見ますと、一般的には風邪が一番多いのですが、その他心身症や船酔いなども散見されます。データを見ると船酔いが意外と少ないのですが彼らも意地があってか申告しないケースが多いのです。薬を飲むのが一番効くのですが保安生はガムや水を口に入れたり、気合で我慢したりと彼らなりに工夫しているようです。

航海中の訓練には、停電やエンジン停止状態を復旧させる機関応急訓練や防火・防水訓練患者搬送、溺者救済訓練など多岐にわたります。もちろんそうした緊急事態の処理も大切ですが、的確に現況を指揮官へ上げることが出来るかなど上官から現場までの連携がいかに迅速に行なわれるかがカギとなります。

こうして度重なる教官の叱責と訓練・反省を繰り返すうち、次第に海保大生は逞しい海の男へと成長していきます。

(要約 プログラム担当 川島宏治)



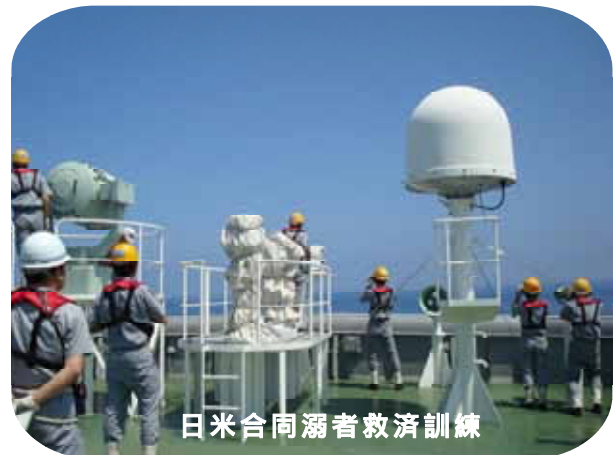
海上保安大学校(呉市吉浦)

遠洋航海の目的

遠洋航海を通じ、専攻する科の船務の専門的事項を完全に習得させ、**船艇初級幹部**として必要な**専門的知識及び技能**を完全に付与するとともに、優れた**精神力、実践力及び統率力**を練成し、かつ、行動海域及び寄港地における業務見学、国際交流等を通じ、海上保安業務全般について十分に理解させるとともに、国際感覚を養い、幹部海上保安官としての高度な素養を伸長するべく実習を行う。

修学旅行・観光旅行ではない

指揮・企画・統率・状況判断力をチェック・テストされている



日米合同溺者救済訓練

「花咲かぬ冬の日」縦組みP16



敦賀クラブの刀根荘兵衛会員が紹介した「花咲かぬ冬の日」は、下へ下へと根を生やせ。そして雪の水をたくさん吸って、雪が解けたら、その栄養分で花を咲かせたらええのや」は、**大濱紘三会員** 320年以上続く、京都の老舗の麩屋の訓えである。この店の二代目当主が、江戸時代の思想家・石田梅岩の商いの教えを根幹に据え、以後の当主がそれを守り続けたという。刀根会員は、この文章の「根」を「理念」に置き換えてロータリーの現状をみれば、会員数が減少している冬の季節に、ロータリーの理念を深く学び、やがて来る春の季節に花を咲かせ光り輝やかさうという考えに繋がる、と論じている。同感するところが多い。

ところで、この記事に出てくる石田梅岩は、以前にも「ロータリーの友」で紹介されたことがあり、その時にどのような人物か調べたことがある。彼は1685年に丹波の寒村の農家の次男として生まれ、11歳で京都の呉服屋で奉公したが、一旦帰郷し、23歳で再び京都の商家に出、その後、儒学、朱子学、仏教などを学び、45歳で講席を開き、55歳で「都鄙問答」を刊行して庶民に商いの道を説いた。さらに58歳で大阪に講席を開き、60歳で「儉約齊家論」を発売している。

梅岩は京都商道の開祖ともいわれ、その教えは「石門心学」として商人の営利活動を積極的に認め、勤勉と儉約を奨励し、仁・義・礼・智を重んじるその精神は現在でも多くの人の共感を得ている。商人とは何か、人間とは何か、という疑問を追求していくとき、最後に到達するのは「本心、本性」である。彼は「学問をすることの究極の目的は、人間の本心を知ることによって、本性を知ることである。本性を知ることができれば天を知ることができる。すなわち、心を知れば、天の命を導きはそのなかに自然に備えられているものだ」と説いている。彼の死後に弟子たちが、その教えを「心学」と名づけたのはこのような理由による。

「広島と真珠湾 - 姉妹クラブが、戦争の傷あとを平和の絆へと変えた」横組みP18-19



錦織さんと廣谷さんの、お二人のツーショットがあまりにも素敵なので、思わず読んでしまいました。**荻田玲子会員** 東南ロータリーに入会し、パールハーバーと東南ロータリーが、姉妹クラブという事を始めて知りました。ホノルルと広島、ともに戦争で多くの犠牲者を出した都市のロータリー同志が、複雑な思いを乗り越え

て姉妹クラブとなったいきさつを聞いて、感動したのを覚えております。

このような記事を見て、あらためて、私たちのクラブは平和のために良い活動をしているのだなと嬉しくなりました。

私も最近はお母さんなどから聞いた原爆の話を子供たちに伝えていかなければと思っています。けれどもタイミングがなかなか難しいなと思います。

あらためて話す気もしないし、食事中について話をすると、「お母さん、食事のときにそんな話をするのはやめて」と、いわれてしまいました。

戦争とか平和について自分たちの問題として考えられるように、日頃から少しずつインプットして行く事が必要かもしれません。

「清く 楽しく 美しく」縦組みP2-6



脇舛賢治会員 まず、素敵なお人柄の方だな、御父上もまた「清く 楽しく 美しく」な方なのだろう、と感じました。近年、立派な両親の後継者として理想通りになれなかったために道を外れてしまうという事件報道が多々ありました。第三者だから感じるのですが、そんなに自分を見失うほど頑張って立派になろうとしなくてもよかったですらうに、「清く 楽しく 美しく」いられたらよかったですらうに、という残念無念を感じます。

「棋士」の私の勝手なイメージとしては、「頭の切れる方で、話をしたらなんだか自分を見透かされそうで、厳格で近寄りづらい、怖い人」でした。しかし、漫画とはすごいですね！以前「ヒカルの碁」という漫画が大流行し、ぜひ読んでみるよう勧められ軽読しました。本当に勝手ながらイメージが和らぎました。そして「碁」の世界など知りもしないのに身近な気分させてもらいました。

武宮正樹棋士の記事から、「好きこそもの上手なれ」という言葉が浮かびました。「好き」はもちろん自然と「楽しく」できるでしょうが、「嫌い」なことをするときどうしたら自分の心を「清く」保ち、「楽しく」できるのだろうか？と。とりあえず一呼吸置いてみよう、と思います。きっとそうすることで自然に「美しく」いられるのではないかと思います。私も「清く 楽しく 美しく」でいたいと思います。苦しいこともつらいことも、もちろん大好きなことも「清く 楽しく 美しく」を心がけたいです。

「うさんくさい話」 縦組みP22



竹丸勝浩会員

もしもご会食中でしたら申し訳ございません。食後に読まれる事をお勧め致します。

今回、気になりました記事は、宇佐八幡RCの金子さんの投稿「うさんくさい話」です。

道端に落ちていた「犬のふん」が、なかなか腐らないで長い間残っているのが気になったところからの話です。寄生虫学者の本によると、その原因はドッグフードに防腐剤などの薬品が多量に混入されることで、犬のふんの微生物が減少し、なかなか腐らなくなった事によるそうです。金子さんは、「抗生物質、農薬、防腐剤の混入した食物を摂っている人間の排泄物もおなじように微生物が減少して、同じような事になっているのでは」と将来を危惧されています。今は水洗トイレが普及し衛生的で快適なくらしをしていますが、なかなか腐らない排泄物等がそのうち地球上に山積み・・・例えば、私も最近、ノロウイルスや新型インフルエンザ対策で従業員に対して、「手洗い・うがい・消毒」と執拗に注意を促していますが、ひょっとして人体にとって有益な微生物も、これにより排除してしまっているのでは？と少し不安な気持ちになりました。

先日、母校校友会主催で、やはり母校の福岡伸一教授の講演会が開催されました。その講演の中で「狂牛病」について言及されました。元来草食の牛の飼料として、同じ牛の死骸から合成した「肉骨粉」を使用したのが病気の発生の原因であり、さらに自国での使用は禁じたのに、輸出は認めた事で世界中に伝染させてしまった、という人間の身勝手さが浮き彫りにされる話です。「肉骨粉」の製造開始から1987年の初めての発病まで数十年、そこから日本での発症まで14年、そこから数年で「吉野家」から牛丼が消え・・・実にゆっくりとはありますが、ほぼ世界中で、いまだに私たちの生活に大きな影響を与えています。

教授の講演の締め括りの言葉に「生命の『流れ』を止めないこと」とありました。社会・経済のことだけでなく、いろいろ見直す時が来たと感じています。

「光プロジェクト」縦組みP33～



品川晃二会員

山形県の東根ロータリークラブでは地元の県立東根工業高校と奉仕活動や青少年交換などで強いつながりを持ち、「光プロジェクト：光の架け橋・心の架け橋」と名づけた事業

に取り組んでいます。これはモンゴルに太陽光発電システムを設置する活動です。今年8月に生徒8名が新モンゴル高校を訪問し手作り太陽電池パネルを6枚設置し、現地の高校生に原理や作り方などの技術指導を行ないました。これは生徒たちに地球温暖化などの環境問題について目を向けさせることや、世の中に役に立つ「ものづくり」を行なうことが目的であり、今後も継続して交流を深める活動を行ないます。という内容の記事でした。

私が現在広島東南RCで新世代奉仕担当をしており、広島商業高校IACの生徒達が意欲的に取り組めるものは無いかと日ごろから模索していましたのでこの記事を読み、興味をもちました。また、今年9月末に自宅屋根に太陽光発電パネルを設置しましたので、地球温暖化対策の面でも関心を持ち、この記事を取りあげました。

「チェンジ」三題



西政美会員

最近、「チェンジ」と言う言葉をよく耳にする。今年の流行語対象にもノミネートされたい。

冒頭にはじまる**囲碁棋士の武宮正樹さんの特集(縦組みP2-6)**は、いい

人生とは何かを武宮氏は自身の言葉で語ってくれている。

プロの世界に身を置きながら、自身は勝負が好きではない。そんな性格を持ちながらも輝かしい結果を残される。その自身の礎こそが気持ちの変換「チェンジ」だと感じた。

清く正しく美しいと言う言葉を、「正しい」と考えると息苦しくなるから、清く楽しく美しいに「チェンジ」する。それだけで正しいと言う言葉の持つ苦しさから開放され、前向きになれると言う訳だ。

意識を変えることで人生が変わる。そのことを自身の信念の元実践されている生き様が痛快だった。

くらぶ探訪(縦組みP7-11)で紹介されている横浜本牧ロータリーのIT化への「チェンジ」はまさに華麗の一言である。IT化という言葉の裏に隠された問題や弊害も独自のアプローチで解決している。その解決方法は絆と言う人と人とのつながりがなせる業であった。IT化と言う冷たく感じる、何か切り捨てられた部分を横浜本牧ロータリーは人との絆で解決していく。パソコンと人と、ウィンウィンの関係と言えるのではないだろうか。課題も自分たちで把握しており問題解決は遠くないだろう。実利を伴ったこの

変革こそこれから求められる姿の一つだと感じた。

「チェンジ」と言う言葉では語り尽くせない苦悩と信念を感じる特集が「**広島と真珠湾**」(横組みP18-19)の特集であった。私は広島に居る。この地に居るからこそおこがましくも感じる事ができる広島と真珠湾の特集での廣谷正喜氏の苦悩。広島と真珠湾、互いの記憶は消えることなく、遣伝子として後世に受け継がれていく。その、決して消えることの無い記憶を少しずつ前に、未来へと推し進んでいく原動力となった存在がロータリーであった。

ロータリアンの一人として、そして一人の人間として何か「チェンジ」していかなければいけない時期なのかもしれない。

「ご存知ですか介助犬」 縦組みP12-13



楢垣純一会員

介助犬を通した障がい者の自立、社会参加について書かれておりました。日常生活において障がい者の方との接触が殆どないと言っていい私がこの問題について語るのは妥当ではないかもしれませんが、後半部分にあった「身体障害者補助犬法」について少し調べてみました。この法律の趣旨は「障がい者が公共の施設・交通機関を利用する

際に身体障害者補助犬を同伴することが出来るようにし、障がい者の自立及び社会参加を促進する」というものですが、当然補助犬を使用する側にも補助犬の管理が義務付けられます。使用者の補助犬管理が不十分の為、店内で吠え続けたり、被害を及ぼしたりする場合は入店を拒否される場合もあり、障がい者の権利のみならず義務も規定されています。ただ困ったことに現実の社会においては、ある地方自治体の障がい者対象職員採用試験で女性受験者の一人が介助犬同伴での受験を希望したのに対し、「犬アレルギーの受験者に配慮」などの理由で、同伴を拒否した事例や単に衛生面だけを理由に入店を拒否する店舗もかなりあるようです。記事の最後には全国的に補助犬が活躍し始めているとありましたが、法律の整備にも拘らず今後の課題も多いのが現状ではないかと思えます。いずれにせよ、法整備に頼るだけでなく、私自身も含めてこのような問題に対しての意識改革、そのためにはまず「知る」事が何より大切な事ではないかと思えます。ちなみにこの法律でいう「補助犬」とは「介助犬」「盲導犬」「聴導犬」を合わせたものをいいます。

ロータリー公式雑誌「The rotarian」2009.12月号に

“**広島と真珠湾 - 姉妹クラブが、戦争の傷あとを平和の絆へと変えた**”が掲載されました！
(RI 指定記事のため「ロータリーの友」2009.12月号にも掲載)



12月7日 累計：478,000円



中谷一彌、神辺敏治、平岩由紀雄、生谷武寛、日域大陸、檜垣純一、橋本浩二、
 廣谷洲枝、花柳雅豊、久保河内豊会員、岡崎 富男様 R I エコー発表会が盛大にできましたこと、たくさんの方のご協賛いただきましたことお礼申し上げます。今まで最もうまく歌えたこと実感いたしております。当日、美酒をくみかわし本当においしいお酒の味がわかった1日でした。この感動をたくさんの人と一緒にできたらとR I エコーも会員増強を行っています。ぜひ一緒に歌う人を募集しています。 **大濱紘三会員** 本日「11月30日」、湯崎新知事が初登庁され、職員を前に就任挨拶をされました。県職員として今後も職務に専念したいと思っております。 **橋本浩二、味舌文雄、佐藤忠明会員** 先週、職場訪問ではたくさんの方の会員の参加をいただきありがとうございました。年末に向けて安全への心構えができたと思います。また来週は経営研究会です。引き続き、よろしくお願いいたします。 **児玉 治会員** 今日の卓話ゲストの山根修治先生は広島大学第2外科教室の先輩です。教えをいただきました。こうした機会は後輩として喜びです。先日の会員増強グループのHインフォーマルミーティングでは、錦織さん、中村さん、旦さんのウィットに富んだお話、楽しい食事でした。なかでも、錦織さんの「ふけば桶屋(と××)とが儲かるの話」に大爆笑でした。「技あり一本」。出宝させていただきます。 **早田良二会員** 当社ソニー生命とオランダのエイゴングループとの合弁で、ソニーライフ・エイゴン生命が12月1日より営業開始となりました。この会社は年金保険を中心とした商品を販売する会社です。私も販売資格を取得しました。ソニー生命ともどもよろしくお願いいたします。 **惣明福德会員** 本日は福屋様のイベントの関係で駐車場が混雑し、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。今後、前もってのご案内をさせていただくよう十分注意いたします。

歴史文化同好会「鞆の浦」歴史探訪報告



去る12月6日(日)に第70回歴史探訪会に出かけました。今回の探訪会は、郷土史文化同好会が第1回歴史探訪会(平成6年7月)として訪れた鞆の浦でした。今年10月1日の広島地裁による「鞆港埋め立て差し止め」という歴史的な判決、その後の広島県の控訴とにわかに注目を集めている鞆を「海側の視点から眺め直す」というテーマで探訪しました。

当日は、前日の冷たい雨も上がって暖かい好天に恵まれ、行武会長以下15名で元気よく出発しました。講師には元鞆の浦歴史民俗博物館長で現在は緑地連朝鮮通信使関係地域史研究会副会長を務めておられる池田一彦氏にお願いし、鞆の港湾施設・対潮楼・いろは丸展示館・太田家住宅、それに宮崎駿監督が「崖の上のポニョ」の構想を練るために2ヶ月間滞在した古民家なども見学して周りました。鞆は、江戸時代の朝鮮通信使の重要な寄港地、幕末坂本龍馬の海援隊員他いろは丸の海難沈没事件など歴史的興味の尽きない場所でした。



昼食は、NPO法人鞆まちづくり工房が運営している御舟宿いろはで海の珍味をおいしくいただきましたが、その際に、このNPO法人の代表理事で鞆の浦訴訟原告団の事務局長を務めている松居秀子氏に地元人々の暮らしぶりや鞆港裁判の経緯や苦労話などを興味深いお話を聞かせてもらうことができました。

次回は、毎年1度(2月頃)行っている歴史講演会に換えて、茶道・上田宗箇の上田流和風堂を3月28日(日)に訪問する予定です。詳細が決まりましたら改めてご案内しますので、ご期待ください。(報告：生谷武寛)